

令和6年度 第1回石狩市教育委員会叢書発刊編集委員会 議事録

要点筆記

■日時：令和6年8月1日（木）13時～14時30分

■場所：石狩市民図書館 視聴覚ホール

■出席者：下記表のとおり

委員		事務局	
役職	氏 名	所 属	氏 名
委員長	田岡 克介	社会教育部市民図書館館長	伊藤 学志
委員	石橋 孝夫	社会教育部市民図書館副館長	岩城 千恵
委員	村山 耀一	社会教育部市民図書館主査	工藤 一也
委員	三島 照子	社会教育部市民図書館主任	吉岡 律子
委員	志賀 健司	社会教育部市民図書館主任	大塚 隆宣
委員	工藤 義衛		

■傍聴者：なし

次第1 開会

【事務局（大塚）】

本日は大変お忙しい中、ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。
事務局を担当しております、市民図書館の大塚です。どうぞよろしくお願いいたします。
定刻でございますので、只今より「叢書発刊編集委員会」を開会いたします。

次第2 委員の委嘱について

【事務局（大塚）】

早速ですが、次第2委員の委嘱に入らせていただきます。
委嘱状を予め机上に置かせていただいておりますので、これをもって交付とさせていただきます。また、任期につきましては、令和6年8月1日から令和8年7月31日までの2年間とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

次第3 図書館長挨拶

【事務局（大塚）】

それでは、令和6年度第1回の委員会開催にあたりまして、館長の伊藤よりご挨拶を申し上げます。

【伊藤図書館長挨拶】

暑い中、またお忙しい中、お集まりいただき有難うございます。本委員会は、自然・文化・歴史など様々な分野を後世に伝える叢書を発刊することを目的としています。これまで皆様には専門的見地からご審議をいただき、今年3月には叢書第3巻を発刊することが出来ました。有難うございます。この叢書を通じて様々な方が、石狩が生まれ歩んできた歴史・文化や生態系などから気づき、学びを得ていただいているものと考えております。これから皆様には叢書第4巻の発刊に向けまして2年かけてご審議をいただきたいと考えます。ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

【事務局（大塚）】

続きまして、4月に人事異動がありましたので、あらためて事務局の自己紹介をさせていただきます。副館長からお願いします。

【事務局（岩城副館長）】

副館長の岩城です。これまでも皆様からのご意見をありがたく頂戴しております。事務局として頑張りますので、今後ともよろしくお願いします。

【事務局（工藤主査）】

主査の工藤です。高木主査の後任になります、よろしくお願いします。

【事務局（吉岡主任）】

主任の吉岡です。第4巻のテーマが何になるか楽しみです、よろしくお願いします。

【事務局（大塚）】

次に、議事録の関係ですが、本委員会は審議会の位置づけとなっておりますことから、議事録を石狩市WEBサイトに掲載することになっています。

引き続き要点筆記により取り進めて参りたいと考えておりますが、皆様方よろしいでしょうか。

【全委員】

異議なし

次第4 委員長選任について

【事務局（大塚）】

次に、委員長の選任になります。今回委員の皆さま全員が継続して、お引き受けいただいたことから、事務局提案としましては引き続き「田岡さん」にお願いしたいと考えておりますが、皆様よろしいでしょうか。

【全委員】

異議なし

【事務局（大塚）】

それでは、田岡委員長よりご挨拶をいただきます。

次第5 委員長挨拶

【田岡委員長】

引き続き委員長を務めさせていただきます、どうぞよろしくお願いします。第3巻の発刊にあたりましては皆様のご努力により、予定通り発刊することが出来ました。発刊後は市民の皆さんからも様々な感想が寄せられ、事業の継続性を後押ししてくれるという意味において、大変ありがたいと思っています。我々年齢も高くなっておりますが、この事業は個人の都合により途中でやめるような性格の事業ではないと考えています。ぜひ皆様のお力をお借り、本委員会では忌憚のないご意見をいただきながら進めて参りたいと思います。これからどうぞよろしくお願いします。

【事務局（大塚）】

田岡委員長、有難うございました。

それでは、これ以降の議事につきまして、田岡委員長よろしくお願いします。

次第6 議題(1)石狩叢書第4巻のテーマについて

【田岡委員長】

それでは、早速、本日の議題に入ります。

議題の一つ目は、「石狩叢書第4巻のテーマについて」です。事務局から説明願います。

【事務局（工藤主査）】

それでは、提出しております資料に基づき説明いたします。

1 ページ石狩叢書第4巻のテーマについてです。第4巻のテーマにつきましては、今年2月の本委員会で議論になり、たたき台があれば検討しやすいということでした。お手元の資料は志賀委員にテーマを洗い出していただき、前任の高木主査と意見交換を行った際の資料になります。石狩の油田、石狩川、黄金山、石狩の開拓の歴史と大きく4項目ございますが、詳細については志賀委員に補足していただきたいと思います。

【志賀委員】

私から補足説明します。この資料は、2月に作成したたたき台で、石狩の油田、石狩川、黄金山、石狩の開拓の歴史と大きく4つ記載しています。これまで発刊した第3巻までは、石狩の海や山の話に触れてきましたので、今後のテーマとして相応しいものを意識しながら選んだ内容がこの4つになります。の中で、叢書として一番大事なポイントは、わかりやすく面白ということ、興味が湧くような叢書づくりをすべきと考えます。

【田岡委員長】

ただ今、説明がありましたが、このたたき台の他に考えてきたテーマなどがありましたら発言してください。感想でもかまいません。

【村山委員】

それぞれ案を見せていただきましてありがとうございます。確認ですが、これら4案をまとめて次の叢書のテーマにするのか、それともテーマごとに叢書を発刊するのが、そのあたりは如何でしょうか。

【志賀委員】

どの分野も石狩の背景を考えてみたときに繋がりがありますが、基本的には、テーマごとに発刊すべきものかと思います。

【石橋委員】

どのテーマも石狩にちなっていて良いと思います。ただ実際に執筆となると難しい面もあると思います。

【工藤委員】

どのテーマも石狩の基本ですね。面白くわかりやすく書くとなると難しいですね。

【三島委員】

石狩川のテーマもとても面白いと思って見ていました。

【田岡委員長】

石狩川もとても良いテーマですね。象徴的な川だと思います。ただ、石狩には厚田川・浜益川もありますので、石狩川だけに絞って良いものか、そのあたりも含めて考えていかなければなりませんね。

【三島委員】

たたき台には石狩川プラス石狩の川と記載してありますので、厚田川・浜益川を加えることも面白いかもしれません。

【田岡委員長】

油田のテーマも面白いですね。私が当時の町役場に勤めていたころにも油が採れていた記憶があります。生振の人たちはそのガスで栽培をやっていました。コンプレッサーの補助申請が提出されていた時代でした。岩本龍夫さんが書かれた「石狩油田史」という本があります。私事で恐縮ですが、子どもの頃、八の沢に商店から物を納めていましたので、いろいろエピソードがあります。現在でも 90 代前後になる方がいらっしゃいますので、その方々から情報をお聞きすることも大事なことだと思います。

【志賀委員】

油田であれば、岩本さんが書かれた本は採掘にかかわる内容がメインではないかと思いますが、それに加え、「なぜ石狩に油田が？」といった背景に触れるのが良いと思います。

【田岡委員長】

天然ガスを生産している、新潟県胎内市では脱炭素エネルギーの技術開発拠点がオープンするなど、新しい動きも見られます。このたたき台に記載されている執筆者については想定ということでしょうか？

【志賀委員】

油田に関して詳しいと思われる方を記載しました。

【田岡委員長】

記載していただくと、イメージが付きやすいので有難いですね。

【石橋委員】

私の名前が記載されています。岩本さんの執筆の際にお手伝いをさせていただきましたが、私は、油田そのものには、それほど詳しくはありません。

【三島委員】

田中さんの資料に、石狩油田に関わる資料が沢山ありますので、内容を整理して活用が出来るのではないかと思います。大まかな整理は私の方で出来ます。

【田岡委員長】

整理となると発刊のスケジュールが関わってきます。第4巻のスケジュールはどうなっていますか？

【事務局（大塚）】

第4巻の発刊スケジュールは、2年間になります。令和6年度に着手し、令和7年度末に発刊の予定です。

【田岡委員長】

実質1年半の期間ということですね。

【事務局（岩城副館長）】

詳細につきましては、資料の2ページに記載しておりますので、参照願います。

【石橋委員】

田中さんの資料については、整理が必要ですね。第4巻に使えるものとそうでないものに分けなければならない、当然人件費が必要になる。

【田岡委員長】

そのあたりの予算はどうなっていますか？

【事務局（大塚）】

資料整理の人件費はありません。編集委託料の予算は61万6千円、原稿執筆料が5万円程度になります。

【田岡委員長】

油田の話になると、当時の話を知っている方への聞き取りが必要ですね。

【三島委員】

そもそも編集委託料とはどういうものですか？

【事務局（工藤主査）】

業者に原稿を渡し、初校を作成するための予算です。

【事務局（岩城副館長）】

執筆者からいただいた原稿を印刷可能な状況に整える委託業務になります。その後の印刷に関しましては、入札により業者が決定することになります。印刷製本費は令和7年度予算として計上予定です。

【田岡委員長】

油田の叢書となると、当時の話を知っている方から話を聞く必要がありますね。郷土研究会の会員にも協力いただけると有難いですね。

【石橋委員】

調査費や資料整理費に予算をつける考え方はありますか？

【事務局（岩城副館長）】

今年度の予算は確定しており、今年の秋に次年度の予算が始まりますので、そのあたりの協議になります。

【石橋委員】

ボランティアも限界があると思いますので、調査費や資料整理費に予算が必要ではないでしょうか？

【三島委員】

市として第4巻を発刊するわけですから、そのあたりの予算付けは必要かと思います。

【事務局（伊藤館長）】

今の時点では予算化しておりませんが、第4巻に関しスタートして間もないので、今後検討を重ねて参ります。

【工藤委員】

叢書というのは、いきなり原稿を書けるものではありません。資料の収集、整理の段階が必要だということを認識していただきたいです。誰が聞き取り、聞き取る相手を調べるのは誰か、どうやって相手に連絡を取るのか、そういうことが当然出てきます。先ほどの田中さんの資料は誰がどのように整理するのですか。原稿は簡単に出来るものではないことを認識していただきたいです。そのあたりの共通認識を持って進めることが重要です。郷土研究会の力を借りなければならないのであれば、いつまでも無償ボランティアでお願いするという時代ではないのではないのでしょうか。

【三島委員】

第4巻を発刊するという市の考えがあるのであれば、ある程度の予算を確保することが必要ではないでしょうか。

【田岡委員長】

これまでは、ある条件のもとで出来るものはやってあげようというボランティアの気持ちで支えられてきましたが、これからはそこだけに頼るのは難しい時代だと思います。一定の予算を持ちながら事業を進めていくという考えが必要ですね。

とはいえ、メンバーには最大限協力をいただいて進めていくしかありません。時間は前回よりあります。前回、第3巻で執筆料を予算化したのは画期的でした。少しずつ時代に併せて仕組みを作ることが必要ですね。

【石橋委員】

先ほどの田中さんの資料の整理ですが、今年度の予算が無いのであれば、私がボランティアで協力することはできます。

【田岡委員長】

いろいろ意見も出ましたが、皆さんどうでしょうか？今回のテーマについては「石狩の油田」ということでよろしいでしょうか？今日直ちに内容、作業まで詰めることは出来ないので、事務局に第3巻の時のように部会を開催するなど検討してもらい、進めてはいかがでしょうか。

【委員全員】

今回のテーマは「石狩の油田」でいいと思います。

【石橋委員】

残りの選択肢のテーマも重要です。皆さん忙しいでしょうが、そのあたりも同時に進めていく必要があります。

【田岡委員長】

平行とはいきませんが、それぞれ大事なテーマのため、いずれ執筆が必要です。皆さんそういう思いを持ちながら進めていきましょう。

【志賀委員】

7巻まで発刊することを考えますと、皆さんには残りのテーマも想定してもらいながら進めていただけると有難いです。

【田岡委員長】

急に思い立ちましたが、先月図書館を会場に、「石狩湾新港開港 30 周年記念協賛展」を開催しました。新港の歴史的経過というものが叢書の選択肢に相応しいかどうか皆さんにお伺いします。「石狩湾新港史」という本があるのですが、全体の構成が港湾技術です。新港の裏話だとか、新港にかけた人々の話などはなかなか出てこないものですから、テーマとしては残しておきたいと思いました。

【石橋委員】

展示も見させていただきました。石狩町のひとつの時代背景を考えますと、叢書のテーマになり得ると思います。

【志賀委員】

10 巻まで発刊するのならいいんですが、限られた巻数ということを考えますと、叢書のテーマに新港を取り上げる優先度は、それほど高くはないのかなと思います。

【工藤委員】

石狩の過去現在未来を考えると、この時期、叢書にすることがベストだと思います。出来るだけ早く取り組むべきではないでしょうか。新港を知っている方もいらっしゃいますし、資料の数も多いということは整理に時間がかかりますし、早く取り組み、長いスパンでゴールを定めてほしいと思います。

【田岡委員長】

石狩町時代、小樽市さんとの行政区域変更は1回だと思われておりますが、実は何回か行っています。そのあたりは当時職員だった方が、行政区域の変更に伴い、実際に測量をしております。その方に当時の話などを聞いておきたいと思います。

【工藤委員】

いま石狩市の職員で石狩湾新港の歴史を知っている人間は、私を含めていないと思っています。大きすぎて手に負えない状況になっています。やはり今から手掛ける必要があります。

【田岡委員長】

先ほどの行政区域の問題や、決議書の問題。当時の地主さんたちが印を押した背景など、石狩新港史には描き切れていない部分が相当多くあります。

【志賀委員】

これまでの話を聞かせてもらって、やはり石狩湾新港は叢書には馴染まないと思いました。記録を残すのは大事だと思いますが、叢書のコンセプトとは違うものと思います。

【事務局（岩城副館長）】

設置要綱を確認すると、市の自然、文化、歴史、芸術、その他の分野を広く後世へ広めるとあります。新港はその他の分野に合致するかと思い聞いておりました。

【田岡委員長】

要綱も非常に大事ですが、逸脱していない限りは保障されていると考えた方が良さそうですね。志賀委員が言わんとしている部分は十分理解していますし、別の手法の検討も必要とも思っています。

【三島委員】

私は是非、新港を叢書に残していくべきだと思います。叢書にすれば小学校高学年から読めます。江戸末期から伝わる新港の歴史、当時の地主の思いとか、より身近な叢書として必要だと思います。

【村山委員】

私も歴史という切り口で、石狩湾新港を叢書にすべきと思います。新港に携わった多くの方が元気なうちに、取材をして情報を収集整理し纏めることが重要と思います。

【工藤委員】

石狩湾新港が出来る前から住まわれている方と、僕みたいに新港が出来上がったあとに住んでいる市民とは、感覚の差がものすごく大きい。新しい方にとっては用地買収の話なんかは済んだ話であるし、初めて聞く話です。大事なのは、新港って市民にとって何だろう、どういう意味があるのかなど、理解できる内容にしなければならないと思います。どうしても専門書になりがちなので土木技術の話にならないようにしていくことが重要です。

【三島委員】

海水浴場のあたりに石狩海浜ホテルがありましたが、今はありません。あたらしい市民にと

ってはこちらに何かあったのだらうと大発見になるのです。昔から住んでいる人にとっては当たり前の話が、新しく来られた方にとっては大きな発見で、それと同じだと思います。叢書ではわかりやすく解説することが重要です。

【田岡委員長】

図書館には叢書を読んだ感想などは寄せられていますか？

【事務局(岩城副館長)】

発刊間もないので、特に感想は寄せられてはおりませんが、第1巻、第2巻も同様に、例えば鮭の漁についてなど、レファレンスで叢書を使っているものが数多くあります。叢書は、貴重なレファレンス資料にもなっています。

【田岡委員長】

私のところには、親しい方から様々な意見や感想が寄せられています。

【三島委員】

議会だよりの編集後記にも叢書が取り上げられていました。

【田岡委員長】

それで、私のところにも議員さんから連絡があるのですね。それではまとめに入ります。今日決まったことは、第4巻のテーマは「石狩の油田」を先行的にすすめる。併せて残りのテーマも検討を進めること、継続性も決まったということですね。

次第6 議題(2)石狩叢書第4巻のスケジュールについて

【田岡委員長】

それでは、次に議題2「今後のスケジュール」について事務局から説明願います。

【事務局(工藤主査)】

先ほどの議題の中でも議論がありましたが、改めて提出しております資料に基づき説明いたします。資料2ページになります。第4巻の叢書については聞き取り、調査などを考えますと時間が足りない状況ですが、2年をかけて発刊したいと考えています。目安としては今年度中に原稿の執筆までお願いしたいと考えています。従いまして冒頭で説明しました約60万円の編集委託料については今年度未執行となる予定です。令和7年度に改めて予算化し、早い時期に執行したいと思います。その後初稿、第2校、第3校の校正に少し時間を取りたいと思います。いずれにしても令和7年度末には発刊したいと考えておりますので、皆様には更なるお力添えをお願いいたします。以上となります。

【田岡委員長】

ただ今、事務局から説明のあった内容について、ご質問などをお願いします。今年度中に執筆となると、かなりタイトになりますが、大きな目標として捉えることが必要ですね。

次第6 議題(3)その他について

【田岡委員長】

それでは、次に議題3「その他」について事務局から報告をお願いします。

【事務局(工藤主査)】

資料3ページになります。資料の上段は叢書第4巻までの発刊年度と内容を記載しております。

下段につきましては、叢書第3巻までの販売、配布状況になります。第3巻の在庫数が少し多く感じられますが、3月31日発刊後間もないことから、今後も図書館まつりなど

機会を捉えて販売して参りたいと考えています。

【田岡委員長】

ただ今、事務局から説明のあった内容について、ご質問などをお願いします。

【田岡委員長】

無いようですので、次回の開催時期ですが1か月か2か月後ですね。事前に内容を詰めていただき、方向性を出来るだけ早く示したいと思います。

【田岡委員長】

その他、質問がないようでしたら、本日の審議については、これで終了したいと思います、よろしいでしょうか。

委員のみなさまにおかれましては、ご審議を賜りありがとうございました。

令和6年8月14日 議事録確定

石狩市教育委員会叢書発刊編集委員会 委員長



